

課題名

28. ハウスミカンの加温時期と果実品質

成果の概要

- (1) 加温から発芽、発芽から開花、開花から着色開始期までの最低気温の積算は11月25日加温がやや多く要した。
- (2) 満開期から酸含量が1%になるまでの積算気温は11月25日加温がやや少なかった。
- (3) 糖度と酸含量は加温時期が違くと多少異なる推移を示したが、開花160日以降にはほとんど変わらなかった。
- (4) 加温160日以降になると、開花後の品質の経時変化は加温時期で多少異なったが、満開後130日以降になると、果皮の着色を除いては、ほとんど変わらなかった。
- (5) 開花から酸含量1.0%までの平均気温の積算は約3700~4000℃であった。

成績

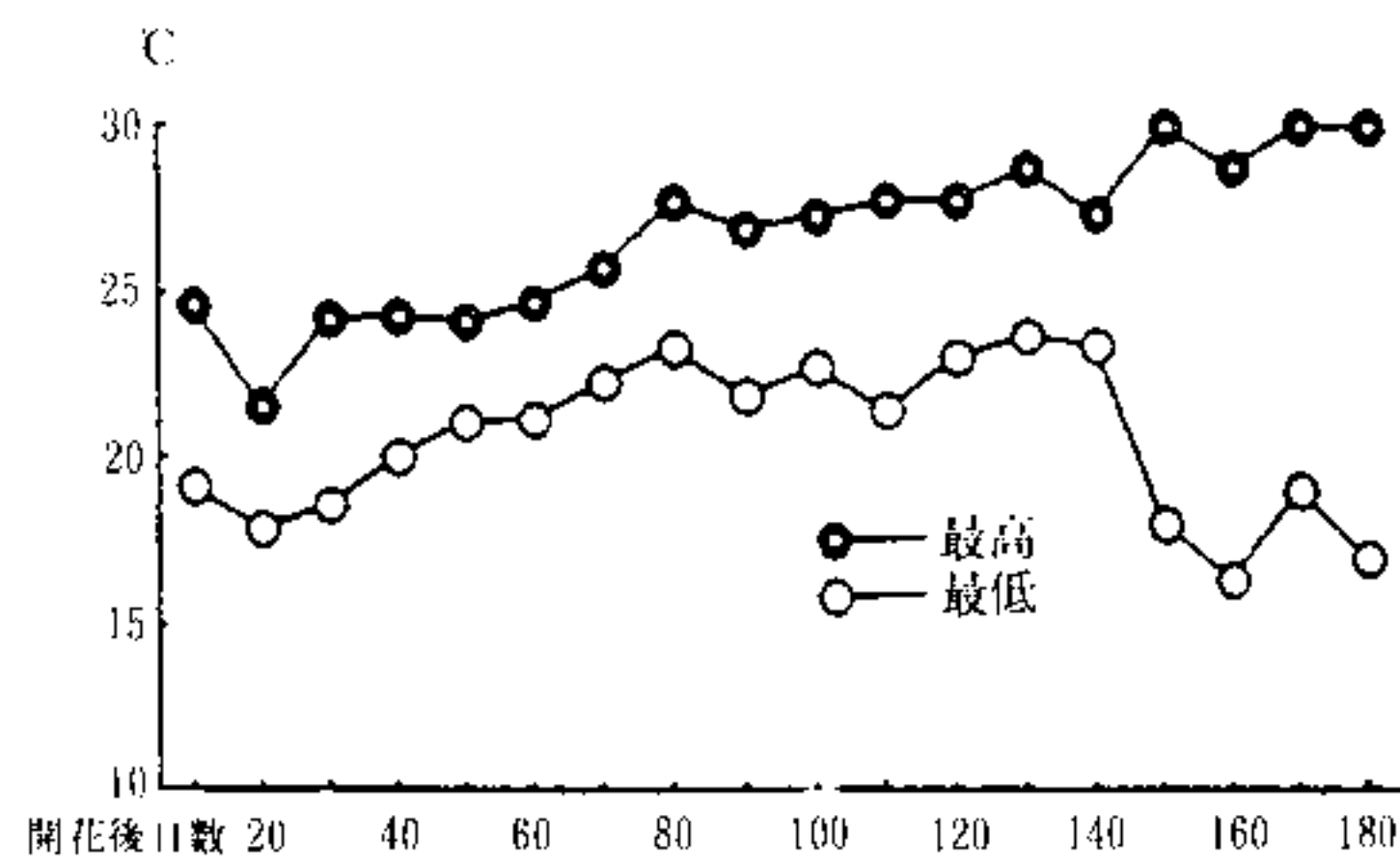


図1 ハウス内気温の推移 (11月25日加温)

概要

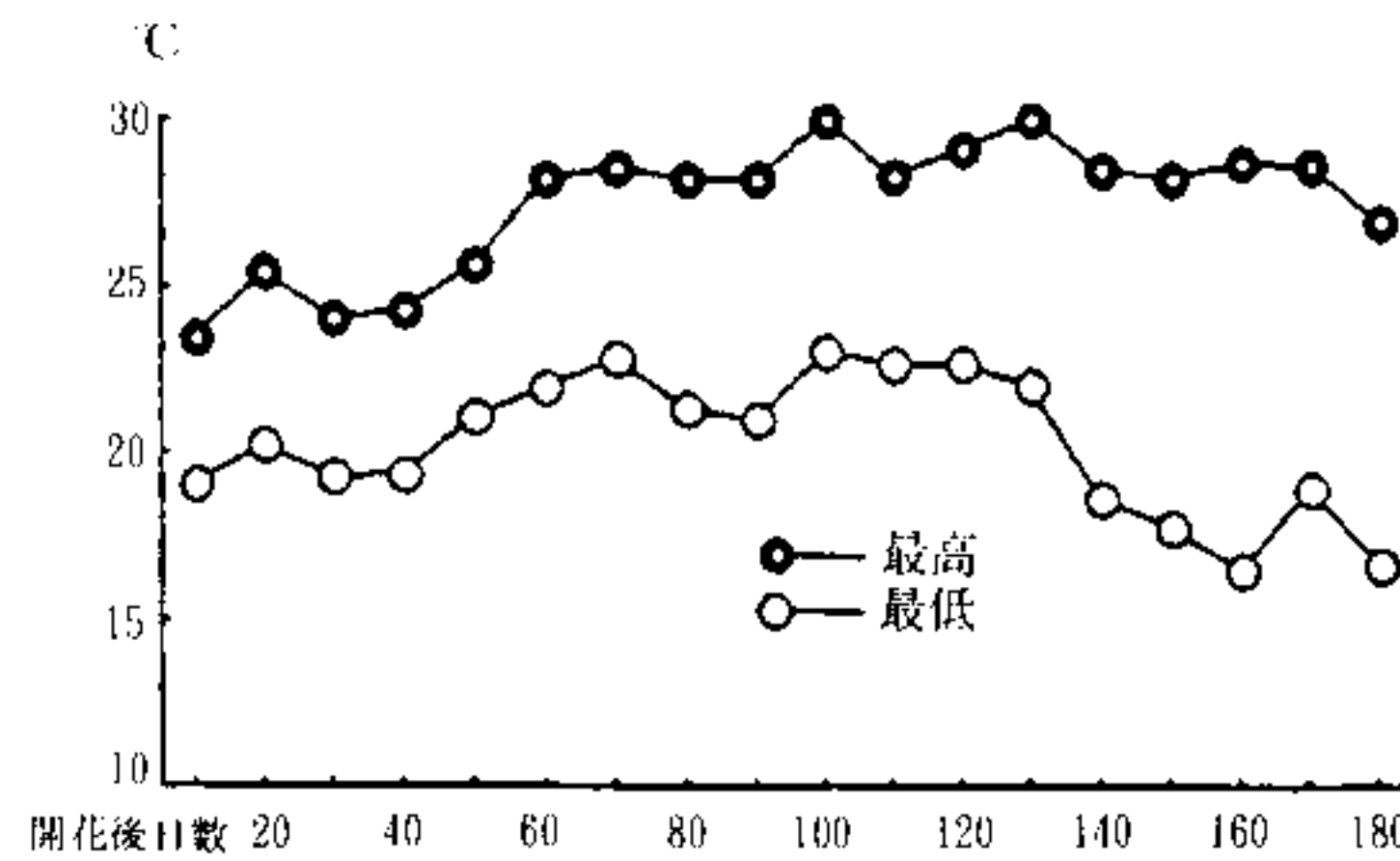


図2 ハウス内気温の推移 (12月15日加温)

成

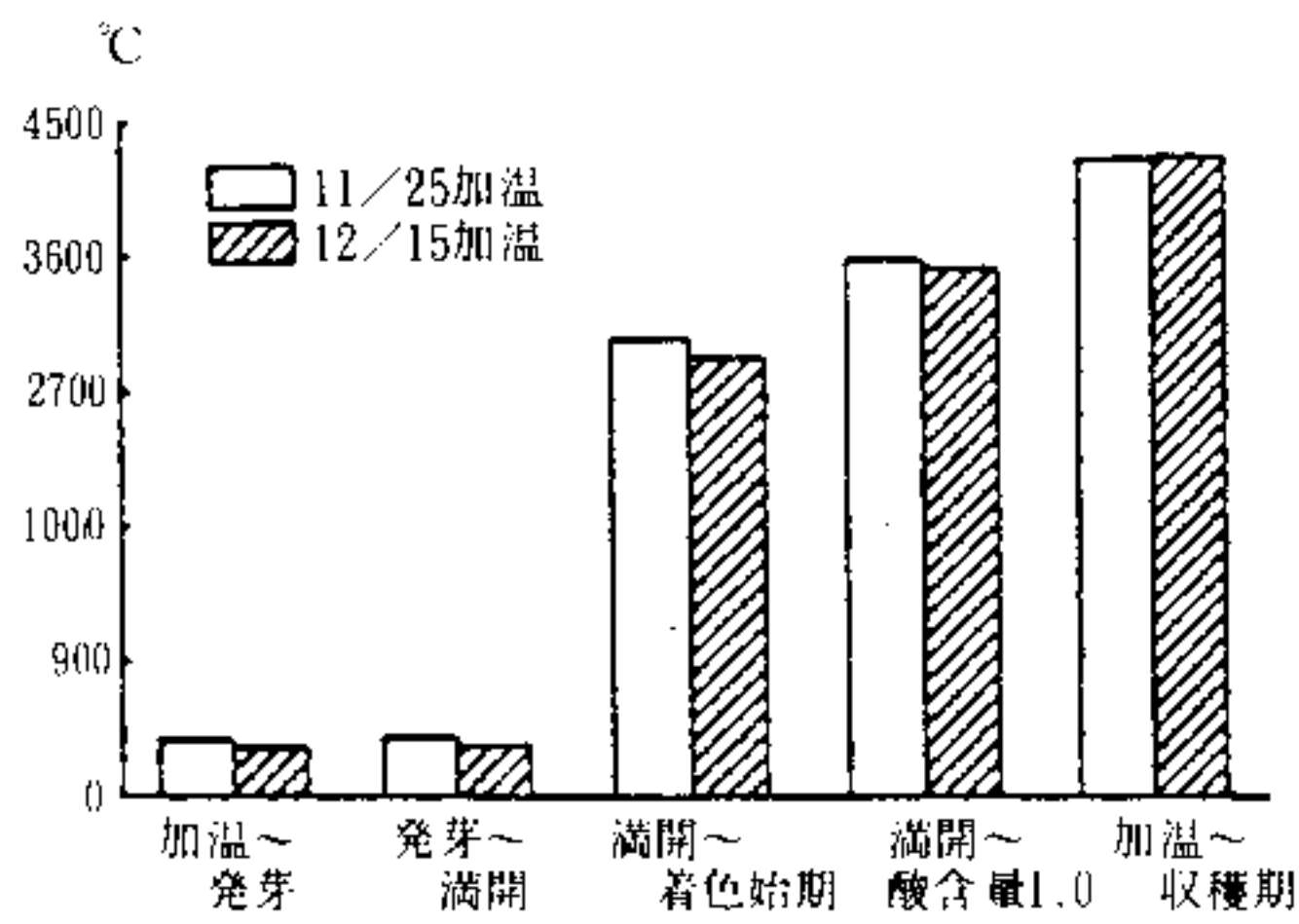


図3 加温時期別の生育相と積算気温

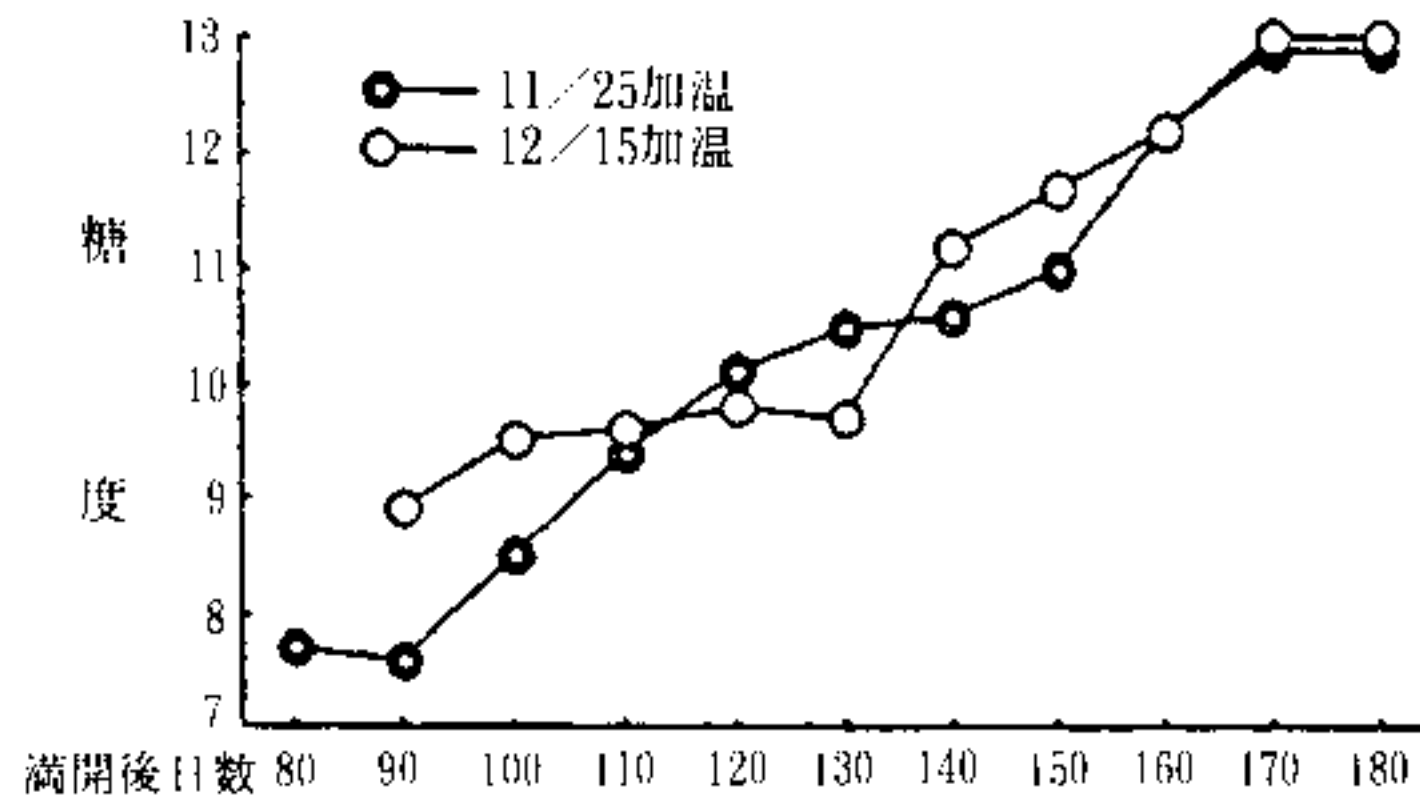


図4 加温時期と糖度

績

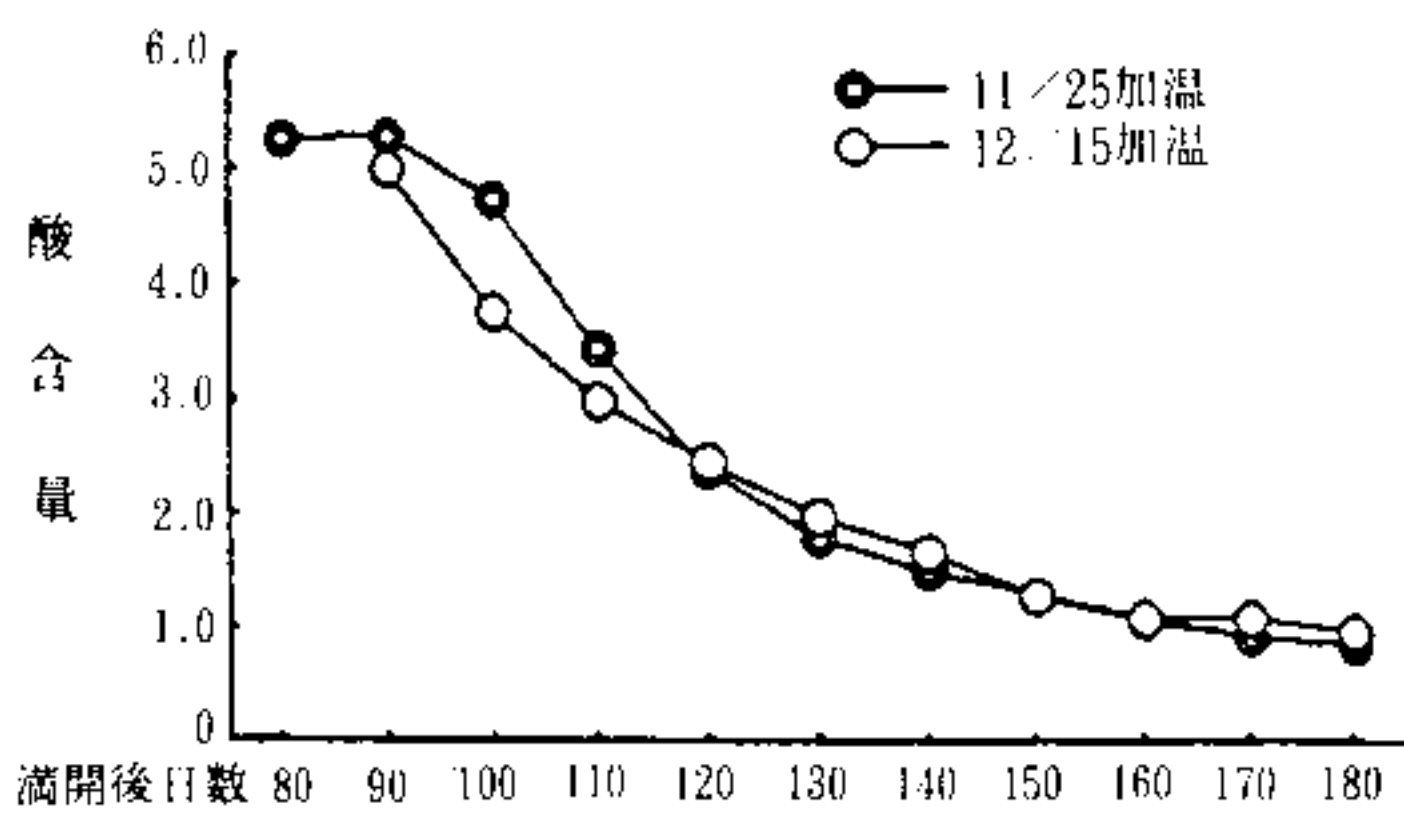


図5 加温時期と酸含量

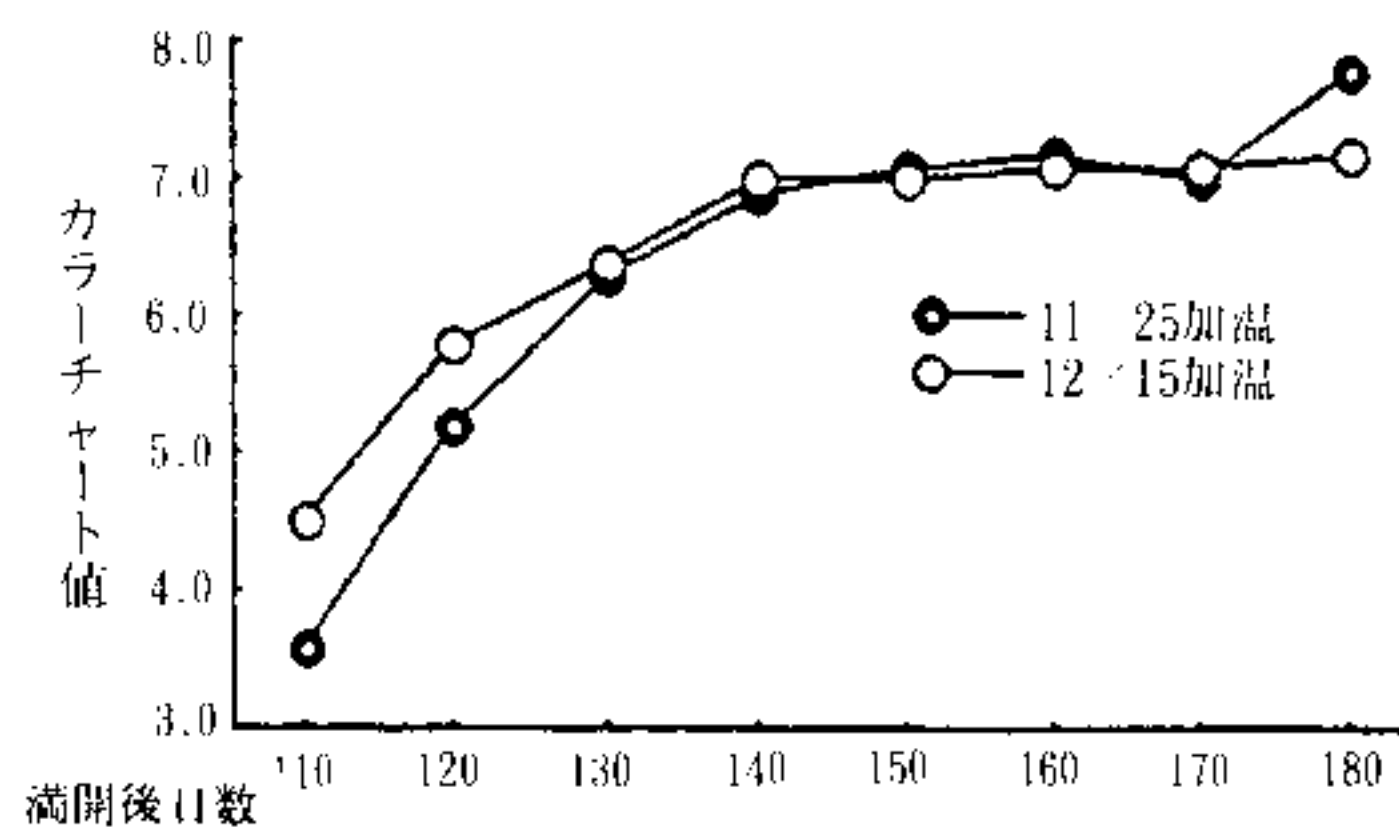


図6 加温時期と果肉の着色

概

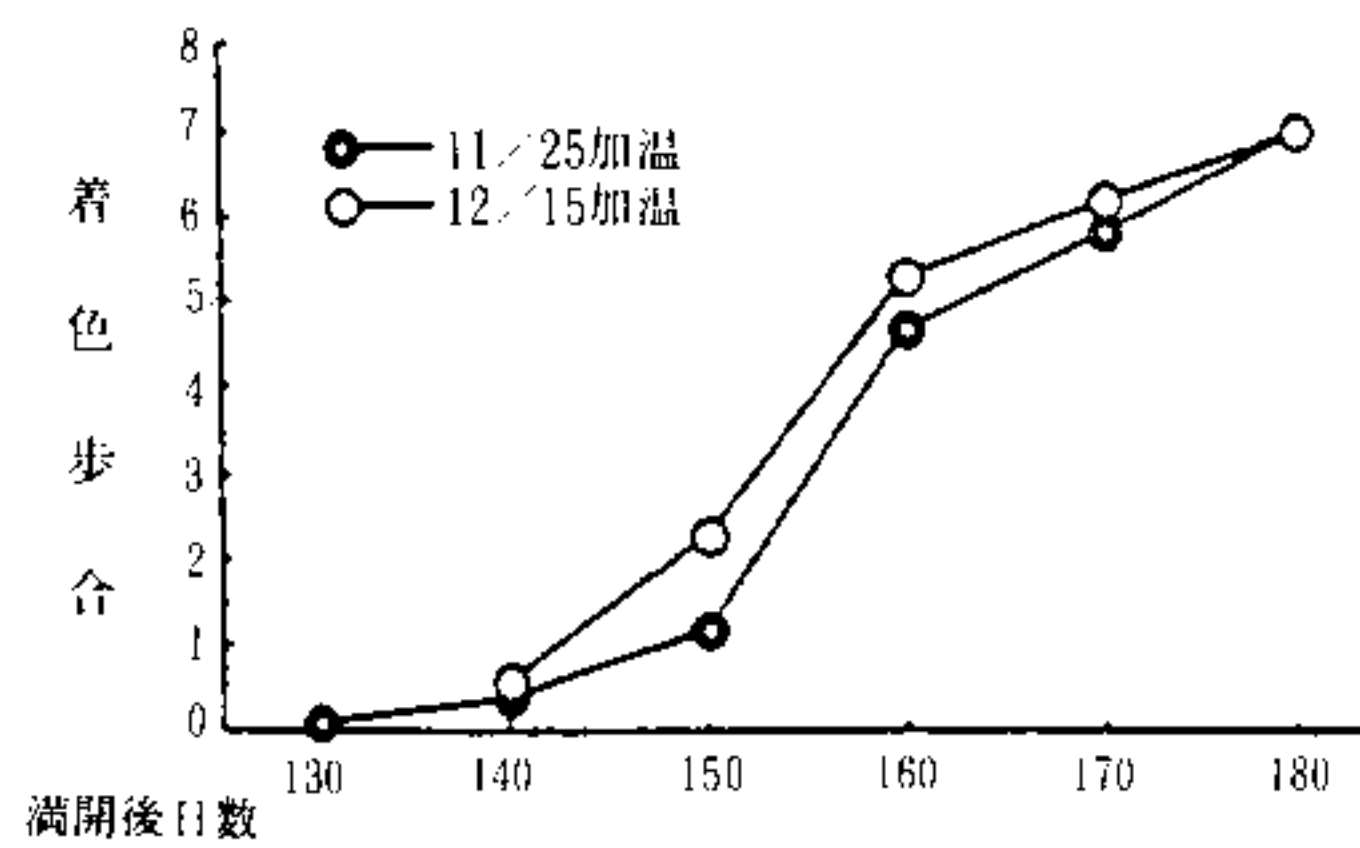


図7 加温時期と果皮の着色

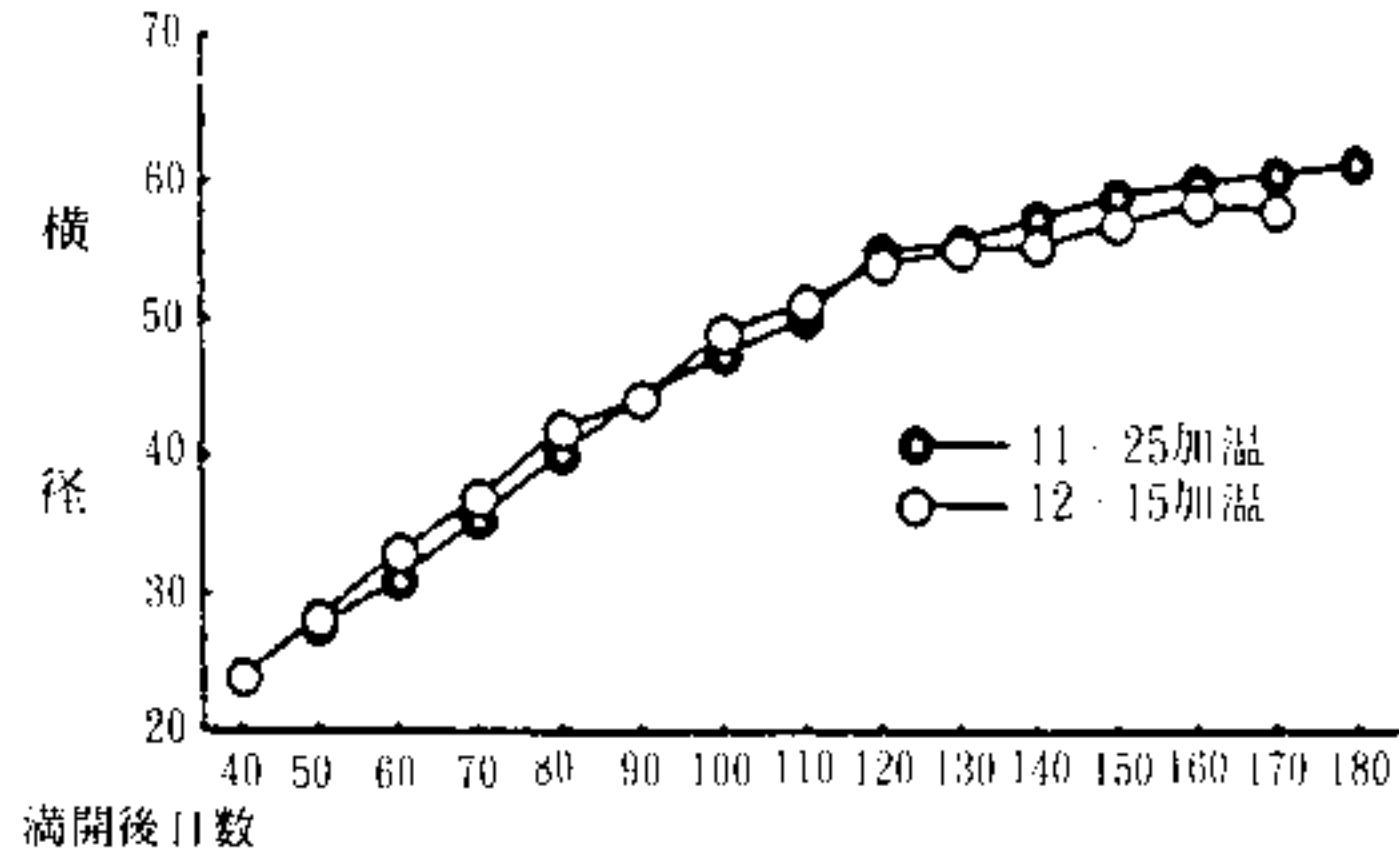


図8 加温時期と果実肥大

要

(果樹試験場)

普及上の留意点